

里子に逢いにパヤオへ



●轟 善美●

【タイに渡る前に】

私の里子はガンガニーちゃん6年生(女)。今まで二通のお便り交換をしました。その中にはこう書かれていました。『里親様がいなかったら、私は今まで教育を受けることができませんでした』そしていつも最後には『里親様の幸せと健康を仏様がお守りくださいますよう心からお祈りしています』と。

遠い海の向こうから、そんな優しい心があたたまる便りにいつも涙しました。そしてどんなに私の励みになったことか…。まだ見ぬガンガニーちゃんを家の孫達と同じく愛しく思う気持ちでいっぱいでした。

『どうしても逢いたい…。』でも私は海外旅行は初めてです。みなさんに迷惑をかけはしないだろうか。最初は目に見えない何かをつかむような不安な気持ちでした。そんなガンガニーちゃんの便りをもう一度読み返した時、明るい光が私いっぱい差し込んだような気持ちになり、『なにがなんでも逢いに行くんだ』そう決めた時、なんの不安も吹き飛んで、むしろ喜びに変わりました。

【里子に会える不安と期待】

チェンマイ空港に着いた時、チェンマイの里子の子供さん達が、出迎えに来て下さっている姿を見て、私はガンガニーちゃんの姿とどぶってしまい、涙が止まりませんでした。みんな明るく目がキラキラ輝いていた。『パヤオへ早く行きたい』少々あせる気持ちが入り交じって…。

一日早くパヤオへ行って来られた久保先生から「パヤオへ行ったら、自分の体でしっかり感じとって、体験して来なさい。子供達はとっても明るいしっかりした子供達だから、涙など見せたらだめだよ」と言っていたけれど…。

次の日宿泊のホテルから2百キロ余り、待ちに待ったパヤオへの長かった道のり…パヤオで一泊して、いよいよ明日は会える…。朝早ばや目が覚めてしまい、カーテンを開けた時、外はシトシトと雨が降っていた。『会える嬉し涙の雨かしら…』。

【里子との涙の対面】

待ちに待った学校は、想像していたよりひどい学校でびっくり…。子供達の楽器の音色に迎えられて、長い古い木の腰掛に、子供達は手に手にプレゼントを持って…。『この中にガンガニーちゃんがいる。どこにいるんだろう…』

『4才の時、両親が離婚して、おばあさんとお父さんに育てられ、おばあさんの人形を作る内職だけで生活して、働きたくても働くところがない。お金の事がいつも頭の中であり、食べて行くのがやっとです』と手紙にあったこと…。『どんな思いでここに座っているんだろう』。私も緊張といろいろな思いが頭の中を交差しました。

いよいよ対面の時、ガンガニーちゃんの名前が呼ばれ、元気よく手を挙げて出て来てくれました。私もせめて笑顔で…。まではよかったのですが、プレゼントをあげようとした時、突然私の胸に飛び込んで来て…。まるで長いこと別れていた母親の胸に飛込んでくるように、二人でしっかり抱き合って涙みだでした。『私のぬくもりでいいのなら、時間などどうでもいい。このまま抱き締めてあげてほしい…。』自分の席に戻ってからもガンガニーちゃんは泣いていた…。『そんなに嬉しかったの？…本当に来てよかった』

【心が通じ合えた時間】

しばらくして目と目が合った時、ニコッと笑顔を見せてくれました。食堂まで二人でしっかりと手を握って、私はなんともいえない暖かな気持ちでいっぱいでした。食堂でガンガニーちゃんと話した時「おばあさんの人形づくりのお手伝いで、遊ぶ時間もないし、中学校へも行けるかどうか分かりません」と聞きました。『どうしてあげたらいいんだろう』。先生が一生懸命お話し下さるのだけれど、言葉がわからない…。言葉の通じ合えないもどかさ。ただ時間だけが過ぎて行って…。

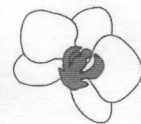
心と心はしっかり通じ合えた。私はそう信じています。とってもきれいな目をしていて、キラキラ輝く目でずっと私を見てくれた。別れの時先生が、もう一度抱いて頂きなさいとでも言うように、私のそばに連れて来て下さいました。「元気でね。頑張るのよ」私は思わず口にして、しっかりと抱き締めてやりました。自動車が動き出すまで、淋しそうな顔をして、手を振ってくれていたガンガニーちゃん。

【美しい瞳に感激】

子供達の瞳は少しも曇ることなく、美しく輝いていた。どの子も、どの子も、夜空に無数の星がきらめいているような…感動的な光景が今もしっかりと私の目に焼き付いています。一生忘れることのできない、尊い体験をさせていただきました。

これからも自然体で、あせらず大きな気持ちで協力させていただきたいと思います。タイ奨学金里親プロジェクトにご縁をいただいたことに、心から感謝いたします。

「ほほえみの国」タイの子供達の未来のために



●松本 正二●

このツアーに参加させていただきましたこと、本当に心より感謝申し上げます。この度のような貴重な体験ができましたことを、感動と共に、今思い出しております。

また来年も行って、あの子どもたちに会いたい。生長を見たい。日々無事の生活を祈りたい。このプロジェクトはとても素晴らしいボランティアだと、行ってみて確信いたしました。このようなボランティアのチャンスを与えて下さった皆様方に、心よりお礼申し上げます。

◆本当に行ってよかった。

◆7日間も滞在でき、チェンマイ、パヤオ等の北部タイの様子が変わってきた。

◆市長様を始めとして、教育関係の方々、現地の多くの方々にプロジェクトの真意、里親の皆様のお気持ちをよく御理解して下さい、とても、とてもありがたい歓迎をしていただきました。

◆理事の皆様方の献身的で、綿密な準備、計画、打合せによるスケジュールなど、全てボランティアの理事の皆様のお心がなければ、このプロジェクトは成立しない。ほんとうにありがとうございます。心より感謝です。

◆同行させていただいた里親の皆様との出会いと感動体験は、一生の貴重な思い出になりました。来年も一緒に行きましょう。

◆来年のツアーは里親の皆様、20~30人ぐらい(今年の約2倍)で、ほほえみの国タイの子供達に会いに行きましょう!いっしょに子供達を抱き締め、無事の生長と明るい未来を祈ってあげたい。